

IV-46 大館能代空港の整備効果に関する基礎的研究

秋田工業高等専門学校 学生員 ○伊藤 えり
秋田県 川村 潤
秋田工業高等専門学校 フェロー 折田 仁典

1. はじめに

昨今、厳しい財政状況が続く中、地方空港の大部分は利用率などの効率性から“非効率空港”と指摘されるなど、費用対効果の視点から多くの地方空港の整備効果が問われている。しかし、高速交通体系に恵まれない地方にあっては、空港は意識距離に起因する閉塞感打破等、定量化できない多大な効果を生み出している現実がある。本研究は上述のような視点から、大館能代空港に着目し、定量的のみならず、定性的な幅広い整備効果を明らかにし、今後の整備課題について検討を加えるものである。

2. 調査の概要

本研究では、大館能代空港整備効果抽出調査とヒヤリング調査、地域住民意識調査、大館能代空港利用者意識調査の4種類を行った。大館能代空港整備効果抽出調査及びヒヤリング調査では、空港の具体的な整備効果についてまとめた。一方、地域住民意識調査においては空港利用実態、空港整備効果、整備課題などを把握した。なお、表-1はこれら調査の概要を示している。

表-1 調査概要

調査の種類	調査実施期間	調査票配布数	調査票回収数	回収率	調査方法
大館能代空港整備効果抽出調査	平成14年5月	128票	53票	41.4%	郵送配布、郵送回収
ヒヤリング調査	平成14年7月～8月	—	—	—	調査員による面接
地域住民意識調査	平成14年11～12月	4000票	1649票	41.2%	調査員による配布、郵送回収
大館能代空港利用者意識調査	調査1 平成15年8月6～8日	600票	373票	62.2%	調査員による配布、郵送回収
	調査2 平成15年10月12～13日	792票	281票	35.5%	調査員による配布、郵送回収

3. 整備効果の抽出

整備効果の抽出調査及びヒヤリング調査結果に基づき、「直接効果」「地域への効果」「県外からみた効果」のカテゴリで整理した。それら主な効果は次のようである。

□ 直接利用による効果

- (1) 旅行ルートの選択肢が増加し、日程調整が容易
- (2) 旅行事業における企画商品の多様化と利用者の増加
- (3) 首都圏への1日交通網の組入れによる人的交流の活発化
- (4) 来客の送迎が容易
- (5) 所要時間短縮による行動範囲の拡大
- (6) 意識距離の克服

□ 地域への効果

- (1) 高速交通体系の整理により企業への好印象
- (2) 閉塞イメージの払拭、地域イメージの向上
- (3) 空港があることの安心感
- (4) 関東、関西圏からの観光客の増加
- (5) 地域への視察者や講師招へいが容易
- (6) 地元や中高生の修学旅行での利用、教育的効果

□ 県外からみた効果

- (1) 秋田へのアクセスビリティの向上
- (2) 地域の認知性の向上
- (3) 地域間交流の活発化

4. 地域貢献度分析

表-2は大館能代空港の地域貢献度に関して9個のアイテム（アイテム1～3については東京、大阪の各便について）を評価項目に設定し、数量化理論第Ⅱ類を用いて要因分析を行った結果である。表によると、レンジの大なる項目は「9：地域のイメージの変化について」（2.6155）であり、次いで「7：行動範囲が拡大したか」（1.0840）であった。この結果によれば、大館能代空港の整備効果には、空港の存在による地域イメージの向上と、旅行所要時間の短縮などによる行動範囲の拡大に関する項目が影響していることが明らかとなった。次に各アイテムの係数について見てみると、レンジの大きい「9：地域のイメージの変化について」では、「極めて向上した」のカテゴリで1.1909と大きく、また「7：行動範囲が拡大したか」では「極めて拡大した」が0.5927と大である。すなわち、地域貢献度には、これらのカテゴリに属する被験者ほど影響度は大きいと考えていることが判明した。

大館能代空港の地域貢献度要因分析

アイテム		カテゴリ	全体	
			係数	レンジ
1	東京便の発着時間について	極めて満足している	0.0673	0.1776
		かなり満足している	0.0176	
		どちらともいえない	0.0101	
		かなり不満である	-0.1104	
	大阪便の発着時間について	極めて不満である	-0.0267	0.4752
		極めて満足している	0.3997	
		かなり満足している	0.0299	
		どちらともいえない	-0.0755	
2	東京便の便数について	かなり不満である	0.0738	0.2264
		極めて不満である	0.3317	
		極めて満足している	-0.0858	
		かなり満足している	0.0010	
	大阪便の便数について	どちらともいえない	0.0158	0.5424
		かなり不満である	0.0330	
		極めて不満である	-0.1934	
		極めて満足している	-0.0900	
3	東京便のフライト料金について	かなり満足している	0.1453	0.2002
		極めて満足している	0.0066	
		どちらともいえない	0.0031	
		かなり不満である	0.0377	
	大阪便のフライト料金について	極めて不満である	-0.0984	0.7614
		極めて満足している	0.6338	
		かなり満足している	-0.0197	
		どちらともいえない	0.0334	
4	あなたの地域に観光客が増加したか	かなり不満である	-0.1276	0.5051
		極めて不満である	-0.0742	
		極めて増加した	-0.2336	
		かなり増加した	0.2715	
5	家族の帰省、他県からの友人訪問が便利になったか	どちらともいえない	0.1137	0.4509
		増加したとは思わない	-0.1796	
		極めて思う	0.1417	
		かなり思う	0.1399	
6	アクセス道路について	どちらともいえない	-0.0893	0.3565
		そうとは思わない	-0.3092	
		極めて満足している	0.1696	
		かなり満足している	-0.0114	
7	行動範囲が拡大したか	どちらともいえない	-0.0009	1.0840
		かなり不満である	-0.0304	
		極めて不満である	-0.1869	
		極めて拡大した	0.5927	
8	緊急時に空港を利用したことがあるか	かなり拡大した	0.1782	0.2346
		どちらともいえない	-0.0624	
		拡大したとは思わない	-0.4913	
		ある	0.2089	
9	地域イメージの変化について	ない	-0.0257	2.6155
		極めて向上した	1.1909	
		かなり向上した	0.4183	
		どちらともいえない	-0.4795	
相関比			0.5452	

5. 回遊行動の分析

図-1は目的行動パターン分析結果を概略的に図示したものである。図では、回遊パターンを旅行目的別にまとめた。「観光」目的の旅行者は、空港からダイレクトに青森県に行き、青森県を観光し、大館能代空港から帰宅するパターンも見られた。一方、「帰省」や「業務」目的のトリップは、大館能代空港の周辺市町村が目的地である場合が多く見受けられた。全体的にみて、空港周辺地域に完結するトリップと他地域へ向かうための経由地としての空港利用が顕著ようである。

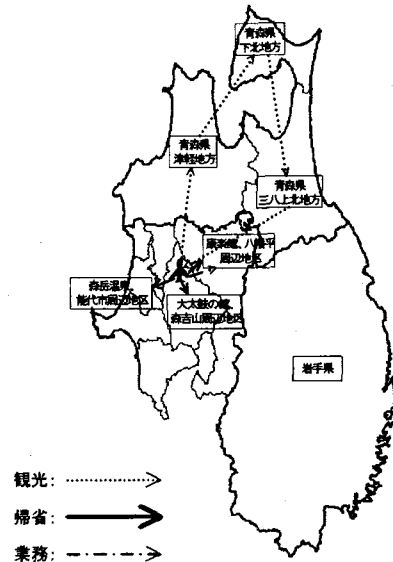


図-1 目的別回遊行動パターン概略図

6. まとめ

整備効果の抽出分析では、所要時間による行動圏域の拡大、意識距離の克服など、多岐にわたる効果があることが判明した。また、地域貢献度要因分析からは、大館能代空港の存在による地域イメージの向上と、旅行所要時間短縮などによる行動範囲の拡大に関する項目が、地域への貢献度評価に影響していることが明らかとなった。旅行目的別に行動パターンを分析した結果、「観光」目的の旅行者は、青森県が目的地であり、他地域へ向かうための経由地として利用している。一方の「帰省」や「業務」目的の旅行者に関しては、空港周辺地域に完結するトリップが多くみられた。